

授業科目	*看護形態機能学 I				実務家教員担当科目	○	
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	定永 敦司						
授業概要	<p>看護師として社会の人々の健康の保持と増進を目指し、病を抱える人の日常生活を支える役割を果たすためには、人間の身体の機能および、身体に生じている病態を理解した上で、その身体に適した援助を実践することが重要です。看護形態機能学では、一年間を通じて器官（臓器）系統別にだけでなく、日常生活の行動から身体を把握する視点を通して、人体の構造と機能についての理解を深め、看護に必要な基礎的な知識を習得することを目的としています。前半の「看護形態機能学 I」では、日常生活の中で馴染みの深い、栄養、呼吸、循環、内臓機能の調節、その正常な生体機能について解説します。実務家教員として、25 年余、高次機能病院の医師として勤務した経験を通じ、医療実践の基盤となる体系的な知識の習得のみならず、生命の神秘に触れ、また個別性の高い現場において求められる医療専門職としての視点や姿勢について共に考える機会を作りながら講義を進めます。</p>						
授業形態	講義	以下すべて対面講義を予定しています。		授業方法			
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1 人体の基本構造を説明できる 2 栄養の消化と吸収について説明できる 3 呼吸と血液のはたらきについて説明できる 4 血液の循環とその調節について説明できる 5 体液の調節と尿の生成について説明できる 6 内臓機能の調節について説明できる <p>2~6 について、日常生活の活動とリンクをさせて理解できる</p> <p>身体の形態と機能について網羅的に基礎的な知識を身に付ける。</p>						
理想的レベル	身体の形態・機能の知識と現場における看護・ケアとの関連を理解することができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合（数値）		備考				
試験	60%						
小テスト	20%						
レポート	20%						
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物							
その他							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング							

DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU11101J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
当該部分の予習と復習										1	
授業計画											
第1回	テーマ：人体の構造と機能を学ぶために										
第2回	テーマ：解剖生理学を学ぶための基礎知識（1） 人体の素材としての細胞と組織										
第3回	テーマ：解剖生理学を学ぶための基礎知識（2） 構造と機能から見た人体										
第4回	テーマ：栄養の消化と吸収（1） 口・咽頭・食堂の構造と機能										
第5回	テーマ：栄養の消化と吸収（2） 胃・小腸の構造と機能										
第6回	テーマ：栄養の消化と吸収（3） 大腸の構造と機能										
第7回	テーマ：栄養の消化と吸収（4） 膵臓・肝臓・脾臓の機能と構造										
第8回	テーマ：栄養の消化と吸収（5） 腹膜										
第9回	テーマ：栄養の消化と吸収(6) （1）～（5）の復習										
第10回	テーマ：呼吸と血液のはたらき（1） 呼吸器の構造										
第11回	テーマ：呼吸と血液のはたらき（2） 呼吸運動										
第12回	テーマ：呼吸と血液のはたらき（3） ガス交換										
第13回	テーマ：呼吸と血液のはたらき（4） 赤血球・白血球・血小板										
第14回	テーマ：呼吸と血液のはたらき（5） 血漿タンパク質・血液の凝固と線維素溶解										
第15回	テーマ：呼吸と血液のはたらき（6） （1）～（5）の復習										
第16回	テーマ：血液の循環とその調節（1） 心臓の構造										

第17回	テーマ：血液の循環とその調節（2） 心臓の機能
第18回	テーマ：血液の循環とその調節（3） 末梢循環系の構造
第19回	テーマ：血液の循環とその調節（4） 血圧の調節
第20回	テーマ：血液の循環とその調節（5） リンパとリンパ管
第21回	テーマ：血液の循環とその調節（6） （1）～（5）の復習
第22回	テーマ：体液の調節と尿の生成（1） 腎臓の構造と機能
第23回	テーマ：体液の調節と尿の生成（2） 糸球体・尿細管・傍糸球体装置の構造と機能
第24回	テーマ：体液の調節と尿の生成（3） クリアランスと糸球体濾過量
第25回	テーマ：体液の調節と尿の生成（4） 排尿路
第26回	テーマ：体液の調節と尿の生成（5） 脱水・電解質・酸塩基平衡
第27回	テーマ：体液の調節と尿の生成（6） （1）～（5）の復習
第28回	前期全講義内容①（消化器系）の知識の定着の確認
第29回	前期全講義内容復習②（呼吸器系、循環器系）の知識の定着の確認
第30回	前期全講義内容復習③（血液系、腎臓系）の知識の定着の確認
テキスト	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 必要に応じてプリント配布
参考図書・教材/データベース・雑誌等の紹介	講義の中で適宜 紹介します。
課題に対する	期末試験60%、小テスト20%、レポート20%で評価します。 レポート内容については講義の中で指示します。

フィードバックの方法	
学生へのメッセージ・コメント	<p>形態機能学（解剖生理学）は、範囲が広く、内容も多岐にわたりますが、今後、疾病学や、その治療、ケアの実践について学ぶ際の基盤となる知識です。体系的な教科書の内容と併せて、自分自身の生活や身体を通して多面的に理解を深めることが大切です。</p> <p>講義範囲について、講義後に講義で聴いた内容を教科書及び参考資料なども参照し、復習してください。次回の講義の始めに10分程度の小テストを行います。（小テストの課題は告知します。）</p> <p>実際に患者さんを目の前にした時の看護の実践に、この講義の中で得た知識をどのように生かせるのか、共有しながら双方向性に講義を進めます。これから人の身体・命に触れる専門職としての意識を培っていくスタートになるよう、意欲的な取り組みに期待しています。</p>